



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和 4年 7月26日

心の栄養をいっぱい蓄えられる夏休みに！

校長 菅原 透

あつという間に第7波が到来し、感染力の高いBA.5が猛威をふるっています。本校は昨日休校措置をとっての1学期末となりました。令和4年度の教育活動がスタートして73日目。子ども達は学びを積み上げ、その学年らしい“顔つき”になってきました。4月には3年ぶりに、在校生（5・6年だけですが）と一緒に入学式を行うことができました。本校伝統の3年紅花学習、地域の先生をお迎えしての畑の栽培や新設した5年田んぼの体験学習も順調に実施できました。6年生の修学旅行、5年生の宿泊学習も予定通り。水泳は例年になく早い梅雨明けとともに進めることができました。しかしながら、予想をはるかに超える第7波の襲来により、学期末は制限を余儀なくされました。ただ、総じて振り返れば、家庭・地域の皆様に強力な後押しをいただき、充実した教育活動を実施することができました。心より感謝いたします。

本校のめざす子ども像「あいうえお名人」。元気な姿、本気な姿は“あいうえお”に表れます。先日行われた民生委員の方々との懇談会では「こんにちは！とあいさつしてくれただけでなく、ご苦勞様ですと声もかけてくれたんです。」との嬉しいお話をいただきました。さすがあいさつ名人！「立腰（りつよう）」と声がか

かると、背筋がピンとなる習慣もできてきました。さすがいい姿勢名人！校長室で仕事をしていたらすてきな歌声が聞こえてきました。声の主を探すと、CDに合わせて2人の男の子が元気よく歌っていました。さすが歌声名人！高学年女子を中心にきちんとした文字が書けています。さすが鉛筆名人！「学校休みになるのはいいけど校長先生に会えないのは嫌だな」さすが思いやり名人！数え切れないほどのすてきな姿がいっぱい見られた1学期。確かな成長をした証です。でもちょっと心配なことも…。児童会計画委員で採点している朝のあいさつの点数がなかなか上がらない…。コロナの影響か、子ども達の“気持ち”が下がっているようにも思われます。この夏休みで、是非エネルギーを充填し、満面の笑顔で2学期を迎えてほしい…。それには、人や物との楽しい体験をいっぱい積むこと。遠くへのお出かけもそうですが、ご家庭であたりまえの団欒を持つことが、一番の心の栄養になります。この夏、我が家のお家時間を充実させてください。いえ、あたりまえの温かな営みを毎日お続けください。家族の笑顔の交わりは、がんばった子ども達の一番のごほうびであり、最高のエネルギーになります。すてきな夏休みにしてください！



= 8月の予定 =

- 19日（金）2学期始業式
- 21日（日）長井白鷹建設組合ボランティア
- 22日（月）教育相談（～23日）
- 23日（火）読み聞かせ
- 24日（水）水泳まとめの会
- 25日（木）水泳まとめの会
- 26日（金）水泳まとめの会
- 30日（火）運動会結団式



= 紅花の花摘み =

7月7日（木）3年生が行いました。“日本の紅をつくる町”と町おこしをしている白鷹町にあって、本校は平成11年からこの取り組みが続けられています。地域の先生にお世話になり、見事に花を咲かせた紅花達。3年生が一生懸命花を摘み、たくさんの収穫がありました。伝統の力が、子どもの自信になること、間違いなしです。



= 5年宿泊学習 =

6月23日（木）24日（金）、飯豊少年自然の家で実施しました。直近まで野外炊飯や館内泊が制限されていましたが、本校の時は解禁となり、存分に体験を楽しみました。1日目の昼は荒砥が土砂降り。でも、飯豊の地は影響なく活動が続けられました。火起こし体験ではキャンプファイヤーの火種を見事にゲット！（校長は何度も参加していますが、火起こし成功は初めてでした！）



暑い中、一人ひとりが熱い思いをもって、仲間と力を合わせ、二日間、やり切りました。たくましく成長しました。

暑い中、一人ひとりが熱い思いをもって、仲間と力を合わせ、二日間、やり切りました。たくましく成長しました。



めざせ！ 手をかけ、声をかけ
四かけ人！ 目をかけ、心をかけよう！

= 陸上大活躍！そして感謝！ =

7月18日（海の日）、天童で県陸上大会が行われました。これまでは地区予選を勝ち抜いたメンバーが学校代表として出場していました。今回は、学校所属が5年の高橋雅弥君だけ。しかし、白鷹ジュニアアスリート所属として、たくさんの子どもが出場したのです。雅也君は5年生ながら各地区を勝ち抜いた6年生に交じって1000mに出場し、予選2組の6番手でゴール。見事な走りでした。（しかし、彼は悔し涙…。来年の再チャレンジは大いに期待できます。）白鷹ジュニアの子ども達も大活躍！入賞を果たし、上位大会の出場権を獲得した子どももいました。スポーツの指導は、地域への移行が全国的な流れとなっていますが、この陸上の取り組みは先駆的な事例になるかもしれません。指導者の皆様へ感謝しつつ、今後も地域と連携して子どもを育てる仕組みを模索していきたいと思ひます。

